

布が織りなす美しい世界

きめこみの押絵「旭日鶴舞」を寄贈

10月20日、シルバー趣味の教室に通う白石富士子さんが市役所を訪れ、約2か月をかけて自作した「きめこみの押絵」を二場公人市長に寄贈しました。

市が実施するシルバー趣味の教室では、高齢者の生きがいを高めるためのさまざまな講座が開かれており、白石さんは「きめこみ人形」の講座に7年前から通っています。今回寄贈した作品の題名は、当日に二場市長と2人で話し合って決定。その名のとおり、旭日の中で舞う2羽の鶴が、2重3重に重ねられた金や白などの布で美しく描かれています。

白石さんは「今までで一番力を入れた作品。末永く羽ばたいてほしいという気持ちを込めました」と笑顔で話しました。



▲二場市長に、きめこみの押絵を手渡す白石さん(左)



▲衣装をきれいに着こなして、はいポーズ!

秋の商店街でにぎやかに仮装行列

第2回たがわdeハロウィーン

10月22日、伊田商店街で「第2回たがわdeハロウィーン」が行われ、魔法使いやお姫様、お化けなどに扮した子どもたちなど約100人がアーケード内に登場しました。

これは、欧米の伝統行事を通して、子どもたちに異文化を体験してもらい、商店街ににぎわいをつくろうと伊田商店街振興組合が主催したもの。この日は、ハロウィーンにちなんだ「かかし」28体もアーケード内に展示され、子どもたちは、英語を使ったカードゲームに挑戦したり、記念写真を撮ったりと大はしゃぎ。風船が飾られた約30店舗の協力店の店先で「ハッピーハロウィーン」などと唱え、チョコレートやクッキーをもらおうと、にっこり笑顔の花が咲きました。

シリーズ 田川市立病院だより

「救急科を開設しました」—救急科



平成28年10月に救急科を開設しました。

田川地域で初めての救急科に常勤医として、福岡大学病院救命救急センターから赴任した田中潤一です。よろしくお願いいたします。

救急科は、救急疾患・外傷の初期診療を行い、地域医療に貢献するとともに、救急医療の向上に努めます。救急搬送された患者さんに対して、救急専門医が急病や外傷を臓器に関わらずに診療します。そして、救急科での必要な救急処置などの診療後、専門治療が必要と判断されれば、院内の専門医と連携して早期に専門治療を開始します。月曜日から金曜日までの日勤帯は、救急専門医として私が常駐して救急車対応を行います。

田川市立病院救急科は救急医学という公共性・社会性の高い医学を専門とする医師が社会に貢献することを目標にして、田川地域の救急医療体制の整備、救急スタッフの拡充による救急科24時間稼働を目指して努力します。

● かわいい情報はHPで検索

田川市立病院

検索

クリック